

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091700035		
法人名	株式会社 中澤		
事業所名	グループホーム あゆみ		
所在地	長野県佐久市八幡220-1		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成25年7月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に居心地の良さと新しい介護の創造を挙げている。それにそって介護支援を目指している。また、利用者さん中心の寄り添った介護を心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあゆみは、母体法人が経営する有料老人ホーム、宅老所に隣接して平成23年に設立された。「居心地の良さと新しい介護の創造」を理念に掲げ、利用者の生活史を大切にケアの提供に取り組まれている。また、地域密着型サービスの意義をふまえ、自治会活動に積極的に関わるなど、利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりに努められている。暮らし全体の中でも重要な位置にある「食事」は、利用者の力の発揮や関係づくりの場となるよう支援され、職員とともに食卓を囲み楽しい食事風景がうかがえた。利用者の健康管理は、協力医の理解のもと連携体制が構築され、利用者と家族の安心につながっている。終末期支援については、事業所が対応しうる最大限の支援方法を踏まえ、利用者とその家族の希望に添った看取りに対応された経緯がうかがった。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(西)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(東)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎日、朝礼で理念を唱和して、共有し1日の実践につなげている。</p>	<p>事業所の理念「居心地の良さの追及」「新しい介護の創造」を事務室に掲げるとともに唱和し、職員のケアサービスする上での拠り所とされている。今後も、理念を具体化して利用者に関われるよう努められる旨をうかがった。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>会社のまわりの清掃、草むしりなどの作業を通じ交流をしている。夏まつりの行事などへの参加をお願いしている。</p>	<p>利用者の「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係を目指して取り組まれている。地区の草むしりなどの作業への職員の参加、中学生の職場体験の受け入れ、小学校への音楽会の鑑賞など、地域社会とのつながりを広げられてきた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症のグループホームあゆみとして地域の皆さんに理解していただく活動しつつある。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>質問、希望などをお聞きし、サービス向上をはかるよう努力する。</p>	<p>運営推進会議には、利用者家族をはじめ、地区長、地域包括センター職員、老人クラブなどに声をかけながら開催し、意見交換が行われている。参加人員の都合などもあり、開催方法については模索中である。</p>	<p>運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための重要な会議である。行事や避難訓練と併せて開催したり、議題に合わせて、消防団、学校、保育園、派出所、地域住民、ボランティアなど様々な方たちに声をかけ、利用者の状況やケアの実情についての理解を得られるような取り組みを期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>密にはとっていないが、わからないことがあつたりしたとき等は相談や指示を聞いたりします。また、市からの連絡もいただいている。</p>	<p>市の担当者は多忙であり異動もあるが、必要時には管理者から積極的に実情を伝えるなど、実直に対応してもらえるよう取り組まれていた。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束しないよう取り組んでいる。玄関の施錠は外部からの侵入の危険がある遅番が帰る時間から朝、早番が来るときまでは鍵をかけているがそれ以外は基本的に施錠はしていない。	職員はミーティングや勉強会などを通じ、身体拘束をしないケアの理解と実践に努められていた。ホームは交通量の多い国道に面しているが、利用者が外出しそうな様子を察したら一緒について行くなど、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えられていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に詳しく利用者さんの状況など職員の対応など聞き変化などないか注意を払っている。虐待のないように日常的に気を配って防止につなげている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強する機会を設けたい。月1回の勉強会を開催している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護改正など変更があったりした場合、お便りを出したり説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これからではあるが家族会などを開きたいと考えている。	担当者から利用者の暮らしぶりや様子の便りを送付したり、ホームの行事に招待するなど、意見や要望を表出できる機会づくりに取り組まれていた。	家族が遠縁であったり、住まいが県外であったりなどの事情から、家族会の開催が困難な状況である。行事に参加していただき、家族同士で話しが出来る場を設けるなど、より多くの意見を出してもらえよう工夫を期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	13の徳目という物を利用し意見等を聞いている。	利用者のケアについての職員の提案や意見は、ミーティングで話し合われた上で反映されていた。管理者による個別面談では、自己評価の振り返りや相談ごとの解決に向けた話し合いが行われ、職員の資格取得に向けての育成など、職員が向上心をもって働けるよう努められていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	査定をし、賞与などに反映させている。また、環境など要望があれば取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力を把握し、面談などを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者同士で勉強する会を開いているところへ参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からお話を多く聞くよう努めている。1対1での話やご本人との気持ちに寄り添い関係を深めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それまでにかかわっている福祉関係などから情報を踏まえご家族にも話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の意見を聞き、支援計画を立ててそれに沿った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の食材の皮むきや、配膳、下膳、食器拭きなどの手伝いをしていたり、清掃、身の回りのことなどご本人ができる事はしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子や健康状態などを月1回の経過報告を行い、家族との連絡を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のご近所の方、知り合いの方などの面会を通して、関係継続の支援に努めている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、利用者の友人が訪ねてきやすい環境をつくり、手紙や電話などつながりが継続できるように支援されていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや雑談などの場を作り、一人ひとりが協力できるような支援づくりを努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんの今の状況をお聞きしたり、相談があれば支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と定期的に会話をし本人の思いや要望を聞き、できる限り要望に応える努力をしている。	言葉の表出が困難な利用者の意向は、日頃の関わりの中で行動や表情などから把握するよう努められている。また、ミーティングなどで本人の視点に立って意見を出し合い、検討されている様子をうかがった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族や前回かかわっている福祉関係の方より話を聞いたりする。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をとり、本人の1日の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設ケアマネにより、作られた介護計画を基本とし、ミーティングで課題をあげ実際どう支援していくか話し合いしている。	ケアマネージャーが本人、家族の意向を基に計画を立案し、ミーティングで話し合い具体的な支援につなげている。三か月に一回の見直しのほか、状況に応じて修正を行っている旨をうかがった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践、気づきなどを出来る限り、詳しく記録し、職員間で共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が本人の支援ができないときなどは代わりのサービスを提供している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある文化センターなどまで散歩し、休憩を取らせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診をうけていただき、健康管理や状況が把握できるよう支援している。	本人と家族の希望に添った医療の受診支援が行われていた。協力医の理解と協力により、連携が密に行えるようになったことが、利用者、家族、職員の安心につながっている。日々の健康管理や体調の変化の早期発見に努められていた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護で週に1回来社してもらい、入居者の方の状態を伝え、相談し支援を行っている。24時間相談体制も整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話で連絡を取りあったりして、今後の話などを行っている。情報の交換も必要に応じてしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでみられる範囲であれば重度化、終末期を迎えても関係者協力をし支援に取り組んでいく考えである。	看取りの指針を作成し、本人と家族の意向をそのつど確認しながら、事業所の対応可能な範囲で取り組まれていく方針である。実際に、本人と家族の意向のもと、希望に添った静かな看取りを支援された経緯についてもうかがった。	本人や家族の意向を踏まえ、協力医や訪問看護師と連携をとりながら、安心した最期を迎えられるよう取り組まれている姿勢がうかがえた。家族との話し合いのタイミングや、医療の範囲、看取り後の他の利用者や職員の心理面への影響など、研修や検討を重ね、さらに体制を整えられることを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に発生時の対応はマニュアルがある。それをいざとなったときスムーズに対応できるよう訓練を考えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については119への直通電話があり、年2回避難訓練を行う。	消防署の協力のもと救急講習会が行われた。今後、夜間想定避難訓練や呼び出し訓練など、他の事業所での取り組みを参考にしながら取り組まれていく旨をうかがった。	利用者の高齢化とともに身体機能の低下、重度化が進む中、職員だけの誘導には限界がある。いざというときに慌てず確実に誘導できるよう日常的な確認と、運営推進会議で地域住民に避難訓練への参加をお願いするなど、協力体制を構築されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、ほかの人からの言葉に傷つけないように、言葉かけに対応している。一人ひとりの呼び方にも本人の希望を取り入れている。	職員は言葉掛けの際は利用者と目の高さを合わせるなど、優しい笑顔で接していた。	プライバシーの保護と人格の尊重は対人関係の基本原則であるが、実際には親しさのあまり馴れ合いになるなど、守り通す事が難しい事項でもある。今後さらに、研修への参加や勉強会を継続するなど、確認しあいながら丁寧に取り組まれることを期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いやりや希望など、積極的に出せるよう促して声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんが一日をどのように過ごしたいか希望を聞いてやりたいことがあればそれを優先して支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、利用者さんに洋服を選んでいただき着脱のお手伝いをさせてもらう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みのものや季節感を取り入れた食事をお出するよう心がけている。食材を切っていただいたり、食器の片づけ、拭くなど声掛けをしながら一緒に行っていたりしている。	利用者の力量に応じ、調理の下ごしらえ、準備、片付けなどに参加していただくことで、利用者にとって張り合いになるような場面を作られている。食事形態やペースを利用者にあわせ、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく和やかな食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量もその都度チェックし1日を通して記録し、不足している部分は補うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後に必ず、口腔ケアを個々に合う仕方で行っている。また、市の訪問歯科を利用しアドバイスを受けている。曜日を決めて、義歯の洗浄剤で清潔に心がけている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへの促しをはかっている。</p>	<p>職員はおむつをしないですむ暮らしの大切さを理解し、トイレの誘導の際にはさりげなくそっと声をかけるなど、本人の自尊心に配慮しながらのケアに心掛けている旨をうかがった。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>バランスの良い食事提供と便秘になりやすいので意識的に繊維質を多く取り入れるよう心がけている。また、適度な運動も促している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人ひとりの入浴したいという気持ちを大切に、希望を聞き、その人のペースで入れるように支援している。</p>	<p>職員は入浴時の利用者の羞恥心や負担感も理解し、無理強いすることなく、言葉掛けや対応に配慮しながら一人ひとりに合わせて支援されていた。季節に合わせたゆず湯や、音楽をかけるなど、入浴を楽しめる工夫もされている様子をうかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の体調や希望により、休息していただき、消灯時は決めずここに寝る時間が違うので眠くなった様子で休んでもらうよう促す。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>1日の午後に服薬の支援を2人体制で行い、管理はしっかり行っている。薬が変わったときは情報としてあげ特に注意深く症状の観察を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好みのもやそうでないものなどの把握につとめ、役割などもありそれが生活習慣になっている。外出支援なども取り入れ気分転換をはかっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強い時などと外に出られるときはいっしょに外に出て歩いて本人の気持ちに寄り添うようにしている。外食支援を行っている。	外出が利用者がその人らしく暮らし続けるために重要であることを職員は認識し、利用者の希望とペースに合わせてホーム周辺を散歩できるよう努められている。外食、温泉などへのドライブも、季節や状況に応じて積極的に行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本もってきている人は少ないが、パンの販売車が来た時などお金を使い、パンの購入をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者さんのご希望があればご家族にかけの支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは特に清潔を心がけている。リビングには季節にあった花や植木鉢を置く。外出時の写真を飾る。	廊下やリビングの壁には利用者が職員とともに作成された貼り絵など、季節に合わせた飾り付けがされていた。リビングでは利用者同士や職員が和やかに交流する様子が見られ、温かい雰囲気が感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどで一人ひとりの座る場所がほぼ決まっており、その場所でお話をなさったりレクリエーションに参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの使用していたものを置いたり、ベッドの位置など使いやすい様に配慮して使っていたらいます。	居室はプライバシーを保てる個室であり、テレビ、写真や観葉植物など、本人がその人らしく過ごせるような環境作りに整えられていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じた介護をし、レクリエーションや一日の生活の中でできる事をしていただき過ごしていただいている。転倒に気をつけて見守りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎日、朝礼で理念を唱和して、共有し1日の実践につなげている。</p>	<p>事業所の理念「居心地の良さの追及」「新しい介護の創造」を事務室に掲げるとともに唱和し、職員のケアサービスする上での拠り所とされている。今後も、理念を具体化して利用者に関われるよう努められる旨をうかがった。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>会社のまわりの清掃、草むしりなどの作業を通じ交流をしている。夏まつりの行事などへの参加をお願いしている。</p>	<p>利用者の「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係を目指して取り組まれている。地区の草むしりなどの作業への職員の参加、中学生の職場体験の受け入れ、小学校への音楽会の鑑賞など、地域社会とのつながりを広げられてきた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症のグループホームあゆみとして地域の皆さんに理解していただく活動しつつある。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>質問、希望などをお聞きし、サービス向上をはかるよう努力する。</p>	<p>運営推進会議には、利用者家族をはじめ、地区長、地域包括センター職員、老人クラブなどに声をかけながら開催し、意見交換が行われている。参加人員の都合などもあり、開催方法については模索中である。</p>	<p>運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための重要な会議である。行事や避難訓練と併せて開催したり、議題に合わせて、消防団、学校、保育園、派出所、地域住民、ボランティアなど様々な方たちに声をかけ、利用者の状況やケアの実情についての理解を得られるような取り組みを期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>密にはとっていないが、わからないことがあつたりしたとき等は相談や指示を聞いたりします。また、市からの連絡もいただいている。</p>	<p>市の担当者は多忙であり異動もあるが、必要時には管理者から積極的に実情を伝えるなど、実直に対応してもらえるよう取り組まれていた。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的に拘束しないよう取り組んでいる。玄関の施錠は外部からの侵入の危険がある遅番が帰る時間から朝、早番が来るときまでは鍵をかけているがそれ以外は基本的に施錠はしていない。危険防止以外はサイドレールなどの使用はしない。</p>	<p>職員はミーティングや勉強会などを通じ、身体拘束をしないケアの理解と実践に努められている。ホームは交通量の多い国道に面しているが、利用者が外出しそうな様子を察したら一緒について行くなど、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えられていた。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>常に詳しく利用者さんの状況など職員の対応など聞き変化などないか注意を払っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>これから勉強する機会を設けたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護改正など変更があったりした場合、お便りを出したり説明をしている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会などでご家族がみえられた時等に意見・要望が出たら、職員間で話し合い解決するよう努めている。月1回処分で現状報告を伝える中に意見要望を一言添えている。</p>	<p>担当者から利用者の暮らしぶりや様子の便りを送付したり、ホームの行事に招待するなど、意見や要望を表出できる機会づくりに取り組まれていた。</p>	<p>家族が遠縁であったり、住まいが県外であったりなどの事情から、家族会の開催が困難な状況である。行事に参加していただき、家族同士で話しが出来る場を設けるなど、より多くの意見を出してもらえよう工夫を期待する。</p>
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>13の徳目という物を利用し意見等を聞いている。月に1回話し合いの場を設け意見交換などしている。</p>	<p>利用者のケアについての職員の提案や意見は、ミーティングで話し合われた上で反映されていた。管理者による個別面談では、自己評価の振り返りや相談ごとの解決に向けた話し合いが行われ、職員の資格取得に「向けての育成など、職員が向上心をもって働けるよう努められていた。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	査定をし、賞与などに反映させている。また、環境など要望があれば取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力を把握し、面談などを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者同士で勉強する会を開いているところへ参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からお話を多く聞くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それまでにかかわっている福祉関係などから情報を踏まえご家族にも話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の意見を聞き、支援計画を立ててそれに沿った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食事の食座の皮むきや、配膳、下膳、食器拭きなどの手伝いをしていたり、清掃、身の回りのことなどご本人ができる事はしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>暮らしの様子や健康状態などを月1回の経過報告を行い、家族との連絡を行っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者のご近所の方、知り合いの方などの面会を通して、関係継続の支援に努めている。</p>	<p>職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、利用者の友人が訪ねてきやすい環境をつくり、手紙や電話などつながりが継続できるように支援されていた。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや雑談などの場を作り、一人ひとりが協力できるような支援づくりを努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用者さんの今の状況をお聞きしたり、相談があれば支援している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人と定期的に会話をし本人の思いや要望を聞き、できる限り要望に応える努力をしている。</p>	<p>言葉の表出が困難な利用者の意向は、日頃の関わりの中で行動や表情などから把握するように努められている。また、ミーティングなどで本人の視点に立って意見を出し合い、検討されている様子をうかがった。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族や前回かかわっている福祉関係の方より話を聞いたりする。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をとり、本人の1日の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設ケアマネにより、作られた介護計画を基本とし、ミーティングで課題をあげ実際どう支援していくか話し合っている。	ケアマネージャーが本人、家族の意向を基に計画を立案し、ミーティングで話し合い具体的な支援につなげている。三か月に一回の見直しのほか、状況に応じて修正を行っている旨をうかがった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践、気づきなどを出来る限り、詳しく記録し、職員間で共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が本人の支援ができないときなどは代替りのサービスを提供している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある文化センターなどまで散歩し、休憩を取らせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診、往診をうけていただき、健康管理や状況が把握できるよう支援している。</p>	<p>本人と家族の希望に添った医療の受診支援が行われていた。協力医の理解と協力により、連携が密に行えるようになったことが、利用者、家族、職員の安心につながっている。日々の健康管理や体調の変化の早期発見に努められていた。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護で週に1回来社してもらい、入居者の方の状態を伝え、相談し支援を行っている。24時間相談体制も整っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>電話で連絡を取りあったりして、今後の話などを行っている。情報の交換も必要に応じてしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホームでみられる範囲であれば重度化、終末期を迎えても関係者協力をし支援に取り組んでいく考えである。</p>	<p>看取りの指針を作成し、本人と家族の意向をそのつど確認しながら、事業所の対応可能な範囲で取り組まれていく方針である。実際に、本人と家族の意向のもと、希望に添った静かな看取りを支援された経緯についてもうかがった。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、協力医や訪問看護師と連携をとりながら、安心した最期を迎えられるよう取り組まれている姿勢がうかがえた。家族との話し合いのタイミングや、医療の範囲、看取り後の他の利用者や職員の心理面への影響など、研修や検討を重ね、さらに体制を整えられることを期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故に発生時の対応はマニュアルがある。それをいざとなったときスムーズに対応できるよう訓練を考えている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害については119への直通電話があり、年2回避難訓練を行う。</p>	<p>消防署の協力のもと救急講習会が行われた。今後、夜間想定避難訓練や呼び出し訓練など、他の事業所での取り組みを参考にしながら取り組まれていく旨をうかがった。</p>	<p>利用者の高齢化とともに身体機能の低下、重度化が進む中、職員だけの誘導には限界がある。いざというときに慌てず確実に誘導できるよう日常的な確認と、運営推進会議で地域住民に避難訓練への参加をお願いするなど、協力体制を構築されることを期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、ほかの人からの言葉に傷つかないように、言葉がけに対応している。	職員は言葉掛けの際は利用者と目の高さを合わせるなど、優しい笑顔で接していた。	プライバシーの保護と人格の尊重は対人関係の基本原則であるが、実際には親しさのあまり馴れ合いになるなど、守り通す事が難しい事項である。今後さらに研修への参加や勉強会を継続するなど、確認しあいながら丁寧に取り組まれることを期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いやりや希望など、積極的に出せるよう促して声掛けを行っている。一対一での支援も心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんが一日をどのようにすごしたいか希望を聞いてやりたいことがあればそれを優先して支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、利用者さんに洋服を選んでいただき着脱のお手伝いをさせてもらう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みのもや季節感を取り入れた食事をお出するよう心がけている。食材を切っていただいたり、食器の片づけ、拭くなど声掛けをしながら一緒に行っていた。	利用者の力量に応じ、調理の下ごしらえ、準備、片付けなどに参加していただくことで、利用者にとって張り合いになるような場面を作られている。食事形態やペースを利用者に合わせ、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく和やかな食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量もその都度チェックし1日を通して記録し、不足している部分は補うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後に必ず、口腔ケアを個々に合う仕方ですしている。また、市の訪問歯科を利用しアドバイスを受けている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへの促しをはかっている。</p>	<p>職員はおむつをしないですむ暮らしの大切さを理解し、トイレの誘導の際にはさりげなくそっと声をかけるなど、本人の自尊心に配慮しながらのケアに心掛けている旨をうかがった。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>バランスの良い食事提供と便秘になりやすいので意識的に繊維質を多く取り入れるよう心がけている。また、適度な運動も促している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人ひとりの入浴したいという気持ちを大切に、希望を聞き、その人のペースで入れるように支援している。入浴時間の長さも個々に違ってあり本人のペースで入れるにしている。</p>	<p>職員は入浴時の利用者の羞恥心や負担感も理解し、無理強いすることなく、言葉掛けや対応に配慮しながら一人ひとりに合わせて支援されていた。季節に合わせてたゆず湯や、音楽をかけるなど、入浴を楽しめる工夫もある事をうかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の体調や希望により、休息していただき、消灯時は決めずここに寝る時間が違うので眠くなった様子で休んでもらうよう促す。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日の午後に服薬の支援を2人体制で行い、管理はしっかり行っている。薬が変わったときは情報としてあげ特に注意深く症状の観察を行っている。訪問看護師とも相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好みのものでないものなどの把握につとめ、役割などもありそれが生活習慣になっている。外出支援なども取り入れ気分転換をはかっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強い時など外に出られるときはいっしょに外に出で歩いて本人の気持ちに寄り添うようにしている。外出支援を行っている。	外出が利用者がその人らしく暮らし続けるために重要であることを職員は認識し、利用者の希望とペースに合わせてホーム周辺を散歩できるよう努められている。ドライブや外食など、季節や状況に応じて積極的に外出支援が行われていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本もってきている人は少ないが、パンの販売車が来た時などお金を使い、パンの購入をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者さんのご希望があればご家族にかける支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは特に清潔を心がけている。リビングには季節にあった花や植木鉢を置く。外出時の写真を飾る。	廊下やリビングの壁には利用者が職員とともに作成された貼り絵など、季節に合わせた飾り付けがされていた。リビングでは利用者同士や職員が和やかに交流する様子が見られ、温かい雰囲気を感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどで一人ひとりの座る場所がほぼ決まっており、その場所でお話をなさったりレクリエーションに参加したりしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの使用していたものを置いたり、ベッドの位置など使いやすい様に配慮して使っていただいている。	居室はプライバシーを保てる個室であり、テレビ、写真や観葉植物など、本人がその人らしく過ごせるような環境作りに整えられていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じた介護をし、レクリエーションや一日の生活の中でできる事をしていただき過ごしていただいている。		

目標達成計画

作成日:平成26年2月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 (12)	看取り後の他の利用者や職員の心理面への影響など研修や検討を重ね、さらに体制を整えられることを期待する。	ホームの考えや、看取りの状態になった時の事を話し合う。	日にちを決めて行う。 なるべく、早い時期に行う。	終了
2	10 (16)	家族同士で話しが出来る場を設けるなど、より多くの意見を出してもらえよう工夫をする。	夏(秋)祭りなど、来ていただきやすい行事の時に家族会を開催する。	日程を早めに決めて、なるべく参加していただけるよう、声掛けする。	6ヶ月
3	35 (15)	運営推進会議で地域住民に避難訓練への参加をお願いするなど協力体制を構築させることをする。	地域住民にグループホームを理解してもらう。	運営推進会議開催を通して住民の方にも呼び掛けをしたり、地域の行事にも積極的に参加する。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。